

東京2020パラリンピック聖火フェスティバルが 開催されました!! 8月19日(木)

埼玉県のパラリンピック聖火リレーは、幸手市をスタートして、蓮田市・白岡市、そして川島町から入間市へとつなぎ、朝霞市まで5区間を駆け抜ける予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言発令により公道での開催が中止となりました。

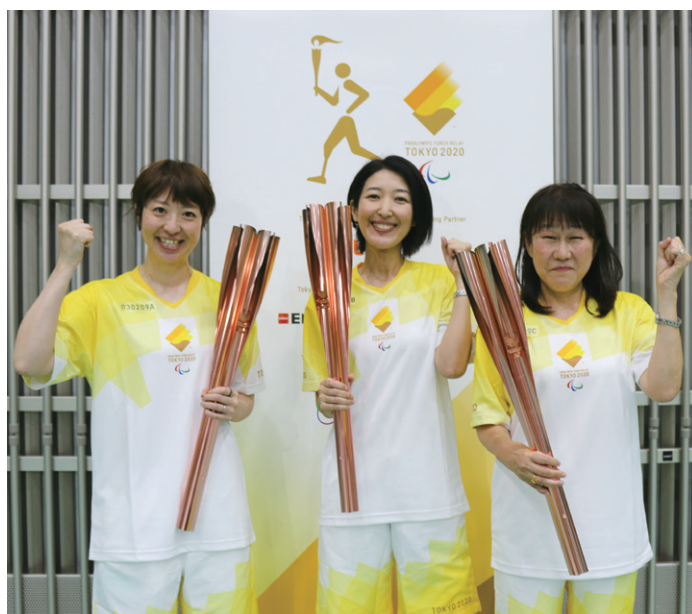
当日は、朝霞中央公園陸上競技場において聖火フェスティバルが実施され、県内17市町村で採火された火を集め、埼玉県のパラリンピック聖火を作る「集火式」が行われた後、134人の聖火ランナーが、3人1組を基本として各区分に分かれ、聖火をつなぐ「聖火リレー」(公道リレーの代替措置)が実施されました。

聖火リレーを終えた後は、埼玉県のパラリンピック聖火を開催都市である東京都へ送り出す「出立式」が行われました。



▲聖火ランナーと市長とのフォトセッション
シラオ仮面も応援に駆けつけました!

蓮田市・白岡市区間の最終ランナーである3人にインタビュー



ごとう なおみ
後藤 直美さん(白岡市在住) 写真左

一緒に走る皆さんと今日初めてお会いしたのですが、走る前からコミュニケーションが取れたので、3人で楽しく笑顔で走ることができました。このご時世のなか、実施できたこと関係者のかたがたに感謝の気持ちでいっぱいです。

ほかり ゆき
穂刈 由紀さん(東京都中央区在住) 写真中央

障がいのあるかたがスポーツで限界まで挑む姿を見て、とても感動したのをきっかけに、パラリンピックに出場するアスリートを中心に応援したいと思って参加しました。最終ランナーでしたので待っている間に3人で仲を深めることができ、本番は楽しく走ることができました。

ねぶちょう ひろみ
根布長 敬美さん(上尾市在住) 写真右

コロナ禍で困難なときに、関係者のかたがたのご尽力で今日の日のを迎えることができて本当に感謝しています。この気持ちを一生忘れないようにかみしめて走りました。みんなが共生していけるように今後も障がいに関わるボランティアを続けていきたいです。

東京2020パラリンピック聖火ビジットを実施しました

朝霞中央公園陸上競技場において集火された「埼玉県のパラリンピック聖火」をランタンにともして展示する「聖火ビジット」を生涯学習センター〔こもれびの森〕において行いました。

東京2020 パラリンピック聖火とは?

パラリンピックの聖火は、オリンピックの聖火とは異なり、47都道府県と、パラリンピック発祥の地であるストック・マンデビル(イギリス)で採火された火が使われます。



▲藤井市長(右から2番目)、野口副市長(右)と
聖火を運んだ担当職員2名